

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	堀内不動産株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中村区名駅三丁目 2 5 番地 9 号
工場等の名称	堀内ビルディング
工場等の所在地	名古屋市中村区名駅三丁目 2 5 番地 9 号
業種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	不動産の賃貸業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年4月21日 ～ 令和5年7月20日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場 所） 堀内ビルディング 3 階 名古屋建物管理株式会社
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊 子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-561-3711		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

弊社は、地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

①省資源・省エネルギー活動の推進

事業所で使用する電気・ガスのエネルギー使用量を令和6年度までに令和3年度比0.5%削減する事を目標とします。

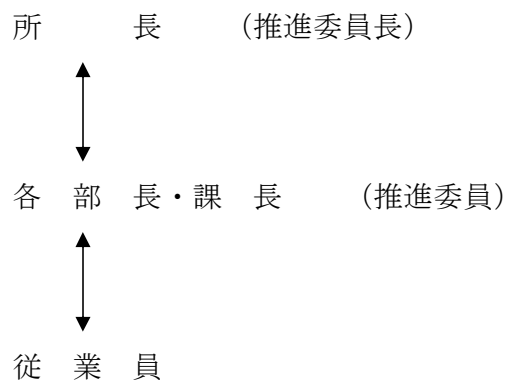
②従業員への環境教育と客先への省資源・省エネルギー活動の啓蒙・協力依頼

従業員に対しては環境教育をすすめ、客先に対しては、省資源・省エネルギー活動の啓蒙及び、協力依頼を行います。

③ビル全体の空調設備をセントラル方式から個別空調方式に変更

2020年4月より貸室・共用部の空調設備が、セントラル方式（冷温水発生機で冷水・温水を作りエアハンドリングユニット7台と各貸室内ファンコイルユニットにて冷暖房を行う）からEHP（電気ビートポンプエアコン）・GHP（ガスヒートポンプエアコン）方式に全面変更し、運用が開始されました。
きめ細かな発停管理・温度管理を実現させ省エネを実現させます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,188	t-CO ₂
（温室効果ガス除く炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六フッ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三フッ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1,188	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量	1,232	t-CO ₂	1,226	t-CO ₂	1,188	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			0.5	%	3.6	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

GHP方式採用の1階ソフトバンクが2022年末に退去しガスの使用量が減少した為、温室効果ガス総排出量が減ったと思われる。 計画書にあげた温室効果ガスの排出の制御に係る措置は変更なく引き続き継続。
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
冷暖房の省資源・省エネルギーの行動実践	効率の良い運転のための、空調機フィルターの清掃 及び、保守点検。	継続する	共用部は年 4 回、テナント部は年 2 回のフィルター清掃を実施。
照明の省資源・省エネルギーの行動実践	不必要な照明を消す、時間外の消灯を徹底します。	継続する	オフィス階のエレベーターホールは 21 時～翌 6 時、飲食店階の共用部通路は 0 時～6 時 30 分まで消灯。
その他	夜間・休日など利用者の少ない時は、エレベーターの台数制限にて節電します。	継続する	エレベーター 5 基の内 1 基は全日終日運転、4 基は平日 8～20 時・土曜 8～18 時・日祝運転停止。
ビル全体の空調システムを、セントラル方式から個別空調方式に変更	不在スペース等の人がいない場所を冷暖房しない又、こまめな温度管理により省エネをはかる	継続する	オフィス階のお客様へは希望に応じて空調切忘れ防止の OFF スケジュールを組んでいる。
LED 照明器具への更新	テナント退去時、貸室内照明器具を LED 照明器具へ更新します。	継続する	蛍光灯照明器具の残っているテナント退去時は原状回復工事時に LED 照明器具へ更新。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--